

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

令和4年4月19日（火）

3. 調査の対象

泉佐野市立長坂小学校 第6学年、全児童

実施児童数 50人

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

ア 教科は、国語、算数・数学及び理科。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの教科に関し、以下のとおりとする。

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

ウ 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととし、出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施する。

(3) 学校の取組みに関する調査

調査対象の児童生徒が在籍する学校を対象に、学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施する。

※平成29年度より、文部科学省から示される都道府県の平均正答率及び市町村の平均正答率は、整数となっております。

令和4年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

- ・全国と比較し、無回答率が前年より増加している。また、正答率が全国平均を下回っているものが多い。
平均正答率（本校 47／泉佐野市 62／大阪府 64／全国 65.6）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語	特徴がみられた設問
<p>【話すこと・聞くこと】 ○話し手の伝えたいこと、文章の意味を正確に捉えることに課題がある。 1一 【話し合いの様子の一部】における谷原さんの発言の理由として適切なものを選択する。（70.0/85.5）</p> <p>○必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることや自分の意見を論理的に書くことに課題がある。 1三 【話し合いの様子の一部】で、中村さんが前田さんに質問し、知りたかったことの説明として適切なものを選択する。（72.0/84.7）</p> <p>【読むこと】 ○登場人物の相互関係について、描写を基に捉えることや漢字や語彙の意味理解、長文を読むことに対して課題がある。 2一（2）「老人」が未来の「ぼく」だと考えられるところとして適切なものを選択する。（56.0/70.6）</p> <p>○話のおよそをつかみ、登場人物の情景描写や表現の効果を考えることや普段使わない文法は難しいと感じる。特定の条件を満たす回答を考えることに課題がある。 2三 【山村さんの文章】の B に入る内容として適切なものを選択する。（34.0/59.2）</p>	<p>【書くこと】 ○文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を考えることに課題がある。 3一 【文章2】の口の部分を、どのようなことに気を付けて書いたのか、適切なものを選択する。（42.0/59.2）</p> <p>○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることや必要な資料を選択する力に課題がある。 3二 【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のように書く。（24.0/37.7）</p> <p>【知識及び技能】 ○学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことに課題がある。 3三 【文章2】の中の下線部アイウを、漢字を使って書き直す。 （ろくが）（28.0/65.2） （はんせい）（18.0/58.7） （したしむ）（24.0/67.1）</p> <p>○漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことに課題がある。 3四 （一）から（二）に書き直した際、気をつけた内容として適切なものを選択する。</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
国語の勉強は好きですか。	50.0	59.2	◇	9.2
国語の勉強は大切だと思いますか。	96.0	93.3		2.7
国語の授業の内容はよく分かりますか。	80.0	84.0		4.0
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	88.0	91.8		3.8
今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題についてどのように解答しましたか。	96.0	95.4		0.6
解答時間は十分でしたか。	46.0	66.0	○	20

- 無回答率が高い。
- 問題の意図を読み取ることに課題がある。
- 漢字に課題がある。
- 長文の中から必要な情報を抜き出す力が必要である。
- 理論的に物事を話す力、目的に応じて話し合う力に課題がある。
- 回答の時間が足りなかった。

令和4年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

1. 全体の傾向

すべての項目で正答率が全国平均を下回っている。上位層が少なく約7割が中下位層に分布している。

平均正答率（本校 49／泉佐野市 61／大阪府 63／全国 63.2）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

算数	特徴がみられた設問
○1（1）被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができるかどうかをみる。（80.0/92.4）	○3（1）表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができるかどうかをみる。（64.0/75.3）
○1（2）二つの数の最小公倍数を求めることができるかどうかをみる。（64.0/72.2）	○3（2）分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できるかどうかをみる。（48.0/63.9）
○1（3）示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できるかどうかをみる。（50.0/76.0）	○3（3）目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる。（54.0/66.8）
○1（4）示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できるかどうかをみる。（28.0/34.8）	○3（4）加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述できるかどうかをみる。（56.0/67.7）
○2（2）百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができるかどうかをみる。（44.0/64.6）	○4（1）正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できるかどうかをみる。（26.0/48.8）
○2（3）示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解しているかどうかをみる。（14.0/21.4）	○4（2）図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解しているかどうかをみる。（64.0/83.2）
○2（4）伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できるかどうかをみる。（32.0/48.0）	○4（3）図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解している。（48.0/66.5）
	○4（4）示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できるかどうかをみる。（36.0/57.6）

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
算数の勉強は好きですか。	44.0	62.5	○	18.5
算数の勉強は大切だと思いますか。	96.0	94.2		1.8
算数の授業の内容はよく分かりますか。	80.0	81.2		1.2
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	94.0	93.3		0.7
算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。	82.0	80.4		1.6
算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法はないか考えますか。	72.0	76.8		4.8
算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか。	82.0	85.7		3.7
今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。	92.0	96.8		4.8
解答時間は十分でしたか。	76.0	83.4	◇	7.4

- 被乗数に空位のある整数の乗法の計算ができない。
- 言葉や数字によって理由を説明する問題において、無回答率が高い。
- 百分率で表された割合と基準量から、比較量を求める計算ができない。
- 式の意味を具体物な生活場面や図とつなげる力が不足している。
- 筆算の手順をもう一度確認することが必要。
- 図を使って割合やそれぞれの量の関係を正しく把握することが必要。
- 文章をまとめごとに見る力が必要と考える。

令和4年度全国学力・学習状況調査の分析（理科）

1. 全体の傾向

・全国と平均して正答率が低い回答が多くなっており、無回答率も全国平均より少し上回っているところが多い。

平均正答率（本校 45／泉佐野市 58／大阪府 60／全国 63.3）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

理科	特徴がみられた設問
<p>【「生命」を柱とする領域】</p> <p>○1（1）見出された問題をもとに、観察の記録が誰のものであるかを選ぶ。（82.0/92.9）</p> <p>○1（2）自分の観察の記録と新たに追加された他者の観察の記録をもとに問題に対するまとめを見直して書く。（40.0/67.5）</p> <p>○1（4）資料を基に、カブトムシは育ち方と主な食べ物の特徴から、二次元の表のどこにあてはまるのかを選ぶ。（62.0/76.1）</p> <p>【「粒子」を柱とする領域】</p> <p>○2（1）一定量の液体の体積を適切にはかりとる器具の名前を書く。（22.0/67.8）</p> <p>○2（3）水溶液の凍り方について、実験の結果をもとにそれぞれの水溶液が凍る温度を見出し、問題に対するまとめを選ぶ。（40.0/62.8）</p> <p>○2（4）凍った水溶液について試してみたいことをもとに見出された問題を解く。（14.0/39.3）</p>	<p>【「エネルギー」を柱とする領域】</p> <p>○3（1）光の性質をもとに、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることが出来る人を選ぶ。（18.0/27.8）</p> <p>○3（4）問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果をもとにして書く。（22.0/35.1）</p> <p>【「地球」を柱とする領域】</p> <p>○4（1）冬の天気と気温の変化をもとに、問題に対するまとめを選ぶ。（60.0/82.3）</p> <p>○4（2）夜の気温の変化について、他者の予想をもとに、記録の結果を表したグラフを見通して選ぶ。（40.0/64.5）</p> <p>○4（3）結果から言えることは、提示された結果のどこを分析したものなのかを選ぶ。（28.0/45.5）</p> <p>○4（4）鉄棒に付着していた水滴と水の粒は何が変化したものかを書く。（30.0/62.0）</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
理科の勉強は好きですか。	84.0	79.7		4.3
理科の勉強は大切だと思いますか。	80.0	86.5	◇	6.5
理科の授業の内容はよく分かりますか。	88.0	88.5		0.5
理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	56.0	67.9	○	11.9
理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	76.0	77.2		1.2
将来、理科や科学技術に関する職業に就きたいと思いますか。	22.0	26.6		4.6
理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか。	78.0	78.0		0.0
理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか。	86.0	84.9		1.1
理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか。	70.0	72.2		2.2
今回の理科の問題では、解答を文章などで書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。	98.0	96.5		1.5
解答時間は十分でしたか。	76.0	90.8	○	14.8

○4%の児童が理科の勉強の大切さを感じられていない。

○習得した知識を活かす実践力に課題が見られる。

○子どもたちが理科の授業を好きになれるような授業内での工夫が見られる。

○子どもの思考を促す授業づくりができています。

○観察や実験などをもとに、まとめることができていない。

○器具の使い方などの理解に関する問題において無回答率が高い。

○観察や実験から得られた情報から、自分の考えを持つことができていない。

○実際に器具を見たり、実験で使用したりするなど、具体的なイメージを持つことが必要。

○実験や観察の中で、自分の考えが持てる力を養う。そのために実験や観察時に目的をもって解釈をする力が必要。

○天気や気温などの変化していくものに対して、解釈して理解することが必要。

令和4年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種類別	本校の状況	本校 < 本校回答率 / 全国回答率 >
自分自身について	<p>○自分のいいところを自分やほかの人から認められていると考えられる児童が多い。</p> <p>○人が困っているときに気づき、進んで助けようとする気持ちが少し低い。</p>	<p>○自分には、よいところがある。(86.0/79.3)</p> <p>○先生は、あなたのいいところを認めてくれている。(94.0/87.1)</p> <p>○人が困っているときは、進んで助けている。(84.0/88.9)</p>
家庭地域生活の様子	<p>○基本的な生活習慣に課題がある。(朝食, 就寝・起床時間, ゲーム, SNS)</p> <p>○地域の方とのつながりを感じている児童は全国よりも少し多いが, 地域行事に参加する児童は少ない。</p>	<p>○朝食を毎日食べている。(86.0/94.4)</p> <p>○毎日, 同じくらいの時刻に寝ている(60.0/81.5)</p> <p>○毎日, 同じくらいの時刻に起きている(82.0/90.4)</p> <p>○普段, 1日当たり3時間以上, テレビゲームをしている。(62.0/30.7)</p> <p>○普段, 1日当たり3時間以上, SNSや動画の視聴をしている。(38.0/19.7)</p> <p>○地域の大人に授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり, 一緒に遊んでもらったりする。(34.0/30.6)</p> <p>○今住んでいる地域の行事に参加している。(42.0/52.7)</p>
家庭学習の様子	<p>○家庭学習に課題がある児童が多い。全国を上回っている児童もいれば, 下回っている児童もいて差が開いている。(学習計画, 勉強時間, わからない問題の対応)</p>	<p>○学校からの課題でわからないことがあったとき, わからないことをそのままにしている(18.0/11.6)</p> <p>○家で自分で計画を立てて勉強している。(60.0/71.1)</p> <p>○平日の勉強時間が</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2時間以上 (26.0/25.1) ・ 30分より少ない(34.0/14.7) <p>○土日の勉強時間が</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3時間以上(8.0/13.6) ・ 全くしない(40.0/12.3)

<p>学校での生活の様子</p>	<p>○いじめに関する児童の意識が高い。</p> <p>○大半の児童が学校に行くのが楽しいと感じている。</p> <p>○自分と違う意見を聞くことはできるが、違うことについてそこから自分の学びにしようとはできていない。</p>	<p>○いじめは、どんな理由があってもいけないと思う。(98.0/96.8)</p> <p>○学校に行くのが楽しいと思う。(82.0/85.4)</p> <p>○自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。(56.0/73.5)</p>
<p>学校での学習の様子</p>	<p>○児童は ICT 機器の活用は勉強の役に立つと考えているが、授業内での ICT 機器の活用は全国に比べて少ない。</p> <p>○主体的に物事を解決することや自分の考えを伝えたり、表現したりすることに課題がある。</p>	<p>○ICT 機器を週3回以上使用している。(28.0/58.2)</p> <p>○学習の中で ICT 機器を使うのは勉強の役に立つ。(98.0/94.4)</p> <p>○自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。(58.0/65.4)</p>

○教師が児童とともにあたたかい学級づくりを行うことや、人権総合学習で自分をふくめたみんなを大切にすることを低学年から学んできているため、自己肯定感があがっている。

○スマートフォンの普及により、就寝時間が遅くなることで起床の時間も遅くなり、朝食の時間をとれなくなっている児童もいる。

○人権総合学習の中で地域の方と出会うことを大切にしている。そのため、地域の方とのつながりが深く、子どもたちも地域を大切にしようとする気もちをもつことができている。

○さまざまな家庭があり、家庭学習を行える環境が整っていないことや、家で宿題以外の学習をする必要性を感じていない家庭が多く、家庭学習に時間をかけづらい状況になっている。

○ICT 機器の活用が全国に比べて少ない。

○与えられたものを一生懸命行うことはできるが、自ら考えて行動する等自分の考えをもつこと、伝えることに課題がある。

本校の取組

◎これまでの取組

1. 基礎学力の向上

◇長坂タイム（始業前15分）のとりくみ

国語（漢字＋ α ）・算数（計算＋ α ）音声 読書 言語活動

◇学習規律の確立

「長坂小！みんなの学習ルール」「聞きとり名人あいうえお」「話し方名人かきくけこ」「立腰・グーペ
タピン」（姿勢の保持）など適切な学習態度・行動を促す。

◇復習テストの実施（4月，11月，2月）

前学年までの既習事項を確認することで児童の実態把握をし，つまずきやすい単元を発見して，授業
改善を行う。

◇ノート指導

見やすいノートの基準を示し，考えを整理し思考の過程が見えるノートを書く指導をする。

◇わくわく学習会

週1回放課後学習会（希望参加）を設定。集中して学習する姿勢を身につけ，算数・国語の基礎基本
問題を解き，自分の課題を克服していく。また，応用問題に触れる機会をつくる。

◇読解力を高める授業

“説明文の部屋”を活用し，文章を構造的に理解し，筆者の主張や大切なことがどこに書かれているか
理解できるようにする。

◇思考力を高める授業

思考力を高める手立てとしてホワイトボードを活用し，自分の考えを表現させることや，ホワイトボ
ードに考えを整理して書く力を身につける。また，ペアやグループなどで考えを共有し，自分とはちがう
考えを認めることや考えを練りあげる活動を取りいれている。

◇ユニバーサルデザインを意識した学習・教室環境づくり，授業づくり

見通しをもたせ集中しやすくするための環境や指導の工夫（前面黒板の壁面，一日のスケジュール，
声のものさし，ハンドサイン，話し合いのルール，ICTの活用，視覚化）

2. ティームティーチング（TT）・少人数指導の充実

◇ティームティーチング（TT）

T1，T2を単元によって変えるなど，専門性や子どもの実態に柔軟に対応し，創造的な授業を進め
る。また，T1，T2がかけ合いで授業を意識し，T2が新たな気づきへのヒントや考えが深まる一言
をつぶやくなど授業を質を高める。

◇分割学習

単元や子どもの実態によって，学びの形態を変え，よりわかりやすい授業，個別課題に対応する授業を
行う。

3. 宿題・家庭学習の徹底

◇「家庭学習のてびき」の配布

正しい家庭学習の進め方を示し，家庭学習の習慣化を促す。

◇「ばっちりウイーク」の設定

学習面と生活面について，それぞれの項目が達成できているか子どもと保護者がチェックする週間を
年に4回設定し，家庭での基本的な学習や生活習慣を身につけさせる。

4. 指導力の向上

◇学力向上アドバイザーの活用

子どもの学習相談や課題のフォロー，職員の授業力アップに資する人材の活用により，学力課題に対す
る組織的とりくみ支援と個別支援をすすめる。

◇算数サポーターの活用

授業中の個々のつまずきに適宜対応できる個別支援をすすめる人材の活用。

◇指導改善・授業改善につながる校内研修の実施

5. 学級集団づくりと生徒指導

◇スクリーニングシートの活用

児童の遅刻や欠席数、家庭の様子などの各項目について評価することで児童理解を深め、重大事案の予防につなげる。

◇ケース会議

一つひとつの生徒指導上の事案についてケース会議を実施する等、学校総力をあげて心の安定を図る。

◇安心して過ごせる学級づくり

落ち着いて過ごせる学級、間違いや失敗を受け入れ、否定的に見ない学級、学び方の違いを認め合える学級づくりをすすめる。

◇きもちあったかタイム（情動教育）

相手の気もちや自分の気もちについてゆっくり考え、どんな行動をとればよいかをクラスみんなで考え他人とうまくコミュニケーションがとれる力を高めていくことで、居心地のよい学級づくりをすすめる。

◇「いいね」や「OK」など子どもの活動を認める声かけをして、自尊感情を高める。

◇支援教育の充実

泉佐野市アセスメントシートの活用や通級担当者との連携、巡回相談を活用することにより、子どもの実態を丁寧に把握し、適切な支援や指導につなげていく。

◇つながりを意識した学習の推進

研究主題である「互いに認めあえる子どもの育成」に向けて、「人とのつながり」「地域とのつながり」を意識した人権総合学習、地域学習を展開する。

◎これからの取組

○漢字の指導方法について改善を図る（全学調、標準学力検査NRTの結果を受けて）。各学級で行われている漢字学習の進め方や宿題（内容・量・進め方）を集約・確認し、今後のとりくみを検討する。

○三中校区の教職員が定期的に集まり、中学校で実施しているNRTの結果から、子どもたちの課題を分析、とりくみを話し合うことで、指導改善や学習改善に役立てる。

○より発展的な校内研になるよう研究授業の在り方を見直し、協議会の持ち方を工夫する。

授業者は提案型の研究授業になるよう授業観察のポイントを明確にし、参観者は自分ならどう進めるかを意識しながら授業を観察することで、授業後の協議会を活性化させる。授業者からの提案授業について、それぞれの教材観や指導観をグループで議論し、一つのものにまとめていけるような協議会にする。

○ICTを活用した個別最適化の学習

○説明文の部屋など読解力を高める指導法についてさらに研究を深め、文章の意図をつかみとる力を高める。